

第 18 回 横浜市交通政策推進協議会 会議要旨	
日 時	平成 31 年 3 月 27 日 (水) 13:30~15:30
開催場所	崎陽軒本社ヨコハマジャスト 1 号館 8 階 1 号会議室
出席者	中村委員、渡邊委員、鎗木委員、東委員、張委員、八郷委員、金子委員、太田委員代理 大野氏、駒田委員、村田委員、原田委員代理 瀬戸口氏、増山委員代理 福山氏、佐藤委員、曾我委員、小田部委員、清水委員、千葉委員、橋詰委員
欠席者	荻島委員
開催形態	公開 (傍聴者 3 名)
議 題	1. 横浜市から情報提供 2. 委員からの情報提供 3. その他
議 事	<p>1. <u>横浜市から情報提供</u>、<u>2. 委員からの情報提供</u> 説明後、全体を通して意見交換をおこなった。</p> <p>(中村委員) この 2～3 年で自動運転、MaaS、シェアリングといった技術の話が出てきているが、こういったことが横浜市の交通政策の中で何のためなのかということがぶれてはいけない。まずは安全、そして、福祉、環境、防災の観点から見たときに、本当に使えるようになっているのかという議論が必要。また、横浜といえば国際だが、2 つ意味があると思っている。インバウンドで訪日外国人がオリンピックなどをきっかけに横浜に来てくれたときに、横浜にまた来たいと思ってもらい、公共交通に乗ってもらおうということがひとつ。そして、横浜の経済力を支えているのが、横浜市民であるが、市民の大半が郊外に暮らしている。その生活を支えるのも交通の役割で、横浜に引き続き住みたいと思ってもらえることが交通で取り組んでいくことのゴール。こういったことは横浜都市交通計画で書いてはいるが、自ら繰り返し問いかけることが重要。新しい技術をどう使うか知恵を出していくのが、この会の集まりの意義でもある。今後とも議論していきたい。</p> <p>(渡邊委員) 都市整備局、道路局それぞれの取り組みについて質問をしたい。</p> <p>◆ 都市整備局予算概要 P14 「関内駅北口周辺整備事業」について 関内駅のバス乗り場が複数個所に分散していて、また停留所名が駅名と連動しておらず、分かりにくい。整備事業の予算の中でバスの乗り場案内を設置する考えはあるか。 → (橋詰委員) 今後、歩行者広場を整備していくにあたり、現時点では乗り場案内をつくる計画は盛り込んではいないが、盛り込めるかどうかを含め確認していきたい。</p>

- ◆ 都市整備局予算概要 P17「横浜都心部コミュニティサイクル事業」について  
コミュニティサイクルとの親和性が高い交通系 IC カードでの決済はできないか以前指摘させていただいた。その後 QR コードなど新たな決済手段なども登場している中、決済手段の多様化を引き続き検討いただきたい。予算概要には「利用者の利便性向上を図り」と記載があるが、具体的にどのような施策を検討しているのかお答えいただきたい。  
→（佐藤委員）IC カードについてはまだ具体化はしてきていないが、引き続き検討したい。利便性向上についての取り組みだが、24 時間で使えないかといった声や、東京でも同じ事業者が同じ事業をおこなっているのでは、そちらと連携できないかといった声をいただいております、現在調整している。
- ◆ 都市整備局予算概要 P32「公共交通利用促進調査費」について  
区別バスマップについては、良い取り組みだと思うが、新たな区で作成する予定はあるのか。  
→（橋詰委員）来年度については、新規で増やす計画を立てている。郊外区を中心に区役所と調整をしている。
- ◆ 道路局予算概要 P29「魅力あるまち・みちづくり」について  
国道 16 号線上においては国土交通省が設置したバス停上屋もあるが、利用者や運行回数の多い郊外幹線バス路線でのバス停上屋の設置が進んでいない。バス停上屋の設置をバス会社任せにするべきではないのでは。  
→（曾我委員）バス停の上屋は道路の付属物ではなく、道路に置く占有物件という扱いになっているため、道路局での設置は行っていない。ただし、いただいた意見のとおり利用者の多いバス停については要望を事業者伝えていきたい。
- ◆ 同ページ「大船駅県道横断歩道橋の整備」について  
大船駅周辺には横浜市側・鎌倉市側合わせて 3 か所のバス乗り場がある。初めて利用する方には分かりにくい。横浜駅西口では 3 か所のバス乗り場があるが、継ぎ目が無い連続した番号であり、シームレス化されていて分かりやすい。大船駅再開発に伴って、笠間口のバスターミナルの番号を鎌倉市が設置しているバス乗り場と連続した番号にするような考えはないのか。  
→（橋詰委員）大船駅の再開発事業は都市整備局の市街地整備部が進め、駅と連絡するデッキを道路局が進めている。いただいた御意見は、鎌倉市の意見も聞いていかななくてはならないため、実現は難しいところもあるが所管部署には話していきたい。

(小田部委員)

「資料1 平成30年度 各部会の開催状況と計画改定部会の解散について」のモビリティマネジメント推進部会の活動の補足をする。ここで記載されているバス事業者インタビューとは相鉄バスに行き行ってインタビューをおこなったものである。撮影した内容は都市交通課のHPからリンクを貼り、閲覧ができる状態となっている。鉄道駅におけるバス乗換案内調査とバス停留所における営業案内調査は、バスの利用促進をねらいとしたもの。鉄道駅におけるバス乗換案内調査は、実際に課題のありそうな駅に行き行ってフィールドワークをし、利用者目線で鉄道を降りてからバス乗り場まで導線を確認した。結果については現在まとめているが、調査しただけで終わるのでは意味がないので、来年度鉄道部会やバス部会に相談し、何らかの改善につなげたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

(清水委員)

道路局の地域交通サポート事業について質問したい。さきほどのプレゼンの中でも紹介したとおり、現在地域の動きが活発になっている。これは、介護保険の改正に伴う、地域の体制整備事業の中で、地域のケアプラザに生活コーディネーターが配置され、その方たちが地域課題を掘り起こして、どう解決していくかを社会福祉協議会と連携し、動いているということ。さきほど申したように、必ずしも買い物支援に車を提供することが頻度を高くは難しいため、車両の確保が課題となってくるのが想定される。今回の支援メニューの拡充では、こうしたボランティアバスの支援も視野に入ってくるのか。

→ (曾我委員) 今のお話は、「資料5 地域交通サポート事業の拡充について」の「4(2) 交通事業者以外(白ナンバーによる取り組みへの支援)」の部分。今までの実証実験の中でも、車をどこから調達してくるかということは課題として出ていた。そこで一歩踏みこんで、車両が必要な地域には本市が費用を負担するという形で平成31年度から取り組んでいきたいと考えている。これは購入しないとどうしても進められないといったときの支援の形。ただ今お話をいただいたように、ケアプラザ等から車両を借りることができるのであれば、ぜひ連携をさせてもらいたい。ただし、緑ナンバーでの運行が第一前提で、採算が合わないが地域の方がやりたいという声があるというときに白ナンバーを案内する。

(小田部委員)

地域交通サポート事業の車両代は買い替えも含まれるのか。

→ (曾我委員) イメージとしては、リースなのか一括購入なのかは相談しながら決定し、また更新時についても相談しながら対応したい。支払は十分可能だと考えている。

(渡邊委員)

神奈川県バス協会に質問したい。身体障害者、知的障害者には運賃割引があるが、精神障害者は事業者によって対象となっていない。健康福祉局の福祉パスはあるが、観光で市外から来た利用者は対象にならない。精神障害者への取り組みをどう考えているのか聞きたい。

→（八郷委員）神奈川県では2社しか行っていない。基本的に、会員の話を聞くと、これは福祉政策として国や自治体がやるべきと考えている。試算したところ、県内60億円の需要があり、半額にすると30億円となる。慎重に対応しなくてはならないという意見が多い。

（清水委員）

地域交通部会については、庁内で議論を深めていただき、その後開催と聞いている。議論の中で区役所との連携の強化の話が出ていると聞いているが、具体的にはどういったことか。また、合わせて福祉と交通の連携の難しさを聞かせて欲しい。

→（橋詰委員）移動支援はどういうニーズがあるのか、それをどのように事業につなげていくかを検討するために地域交通部会を立ち上げた。検討を進めていく中で、対象が分かりにくいというのがひとつある。また、公共交通でいうと、不特定多数を移動するものであり、採算という話が出てくる一方で、福祉は採算ではなく、ひとりひとりの移動をどう支援していくかという観点がある。議論していく利用者の対象についても高齢者なのか障害者なのか、独力で利用できるのか、どこに前提を定めていいかといった難しさがある。そのため、例えば対象を分けて検討するなどの準備が必要であるという思いがあり、庁内で議論を進めていた。また、地域の移動ニーズについては区役所や地域ケアプラザが把握していることが多いため、区役所関係に声をかけて、関係局と一緒に課題を整理している。これらを踏まえて地域交通部会を今後開催していきたい。

### 3. その他

（事務局）

次回の協議会の日程については、各部会の活動状況を踏まえた上で別途連絡する。

以上